
最初、無色（詩集）

TAKAHIRO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最初、無色（詩集）

【Nコード】

N3946L

【作者名】

TAKAHIRO

【あらすじ】

無の世界。それは全てが繋がりにあつて一粒を成していた世界。それが爆発とともに宇宙が生まれ、星が生まれ、生命が生まれ、高等動物が繁栄し、最後には宇宙が消える。また無の世界に戻る。その繰り返し。僕たちは命のある意味、人間が生きる意味を永遠に問い続けなければならないのだ。

無色発光

全てが手を取り合う頃
誰もが笑い合って
争いはなくて

僕らは何故別れを告げるのだろうか？

始めて光を見た誰かが
美しさを説く
億年後の悲しみを知らぬまま

幾つの星が消えただろう
今、青い星が発つ
幾つの星が消えるだろう
また広い空が生まれて
繰り返して 繰り返して

無力が飛び交い 色づく
無色の球体 舞って
時間が流れて

バラバラ音をたてては未来へ向かう

宇宙の光 見つめ 誰かが
星へと訊いた
幾年先 私は声を持つ？

幾つの星が消えただろう

今、青い星が発つ

幾つの星が消えるだろう

また広い空が生まれて

繰り返して 繰り返して

また今日の日を願うまで

発光演奏

春のような 心躍る星たち
無口な岩石の舞い
僅かな奇跡が風になる

青に染まれ 溶けて波よ
風が立てば 流る空へ
今はまだ グレーの空
土が舞うは 海の音へ
青に染まれ 溶けて波よ
今はただ 太陽を待って

風に似てた 無色を舞う粒子が
無口な岩石に告ぐ
初めての音はもうすぐだ

青に染まる無色 星よ
風が立てば 吠える海よ
今はまだ グレーの空

美しい音が溢れる
その日まで願い続けよう

青に染まる無色 星よ
風が立てば 吠える海よ
今はまだ グレーの空
土が舞うは 海の音へ
青に染まれ 溶けて波よ

今はただ 太陽を待って

演奏競和

太陽の足音が近づいて
我が声が届くようにと
土の上を追いかけた

繰り返される悲鳴
その後続く世界は美しくて

消えた声を忘れぬようにと
そのカケラを心に描いて
溶けた意味を思い出せば
そのカケラの最後の意志が続くだろう

最上の毎日を目指しては
争いが絶えぬ日々でも
それはとても美しく

繰り返される日々で
彼らは何かに気付いてゆくのだろう

消えた声を忘れぬようにと
そのカケラを心に描いて
溶けた意味を思い出せば
そのカケラの最後の意志が続くだろう

初めての色
その度に讃えあつて
初めての声

その波に励ましあつて
全てに生まれた意味を

消えた声を忘れぬようにと

そのカケラを心に描いて

溶けた意味を思い出せば

そのカケラの最後の意志が続くだろう

競和染色

その涙の跡に小さな花が咲く
美しくて 切なくて
あらゆる想いが交差して

散る花びら 土をあらゆる色に染め
美しくて 切なくて
再び透明に戻るまで

見上げた空は青くて
その先に触れたくて
また色に染めて 鮮やか
何億とそれを数えよう

散る花びら 其処に聞こえた音を染め
美しくて 何億も
まだまだ風音かざおとに溶けそう

追いかけた空に浮く青
その先に触れたくて
見下ろす空から色を
何億とそれを数えよう

消えない色は今でも
その先に触れたくて
また色に染めて 鮮やか
何億とそれを数えよう

染色進化

例えば土が

明日に向かおうとして

呼吸を始めたストーリー

生まれて消えて

明日が美しいこと願う

生まれ変わりのストーリー

夜空 星の数を数えて

朝日 昇る数を数えて

それを何と例えよう？

想像が繰り返す無限大

今、此処に何が残るだろう？

想像が生み出した無限大

今、此処で何かが散りゆく

未来に何描く？

あの夜 誰か

明日を願って啼いた

二足で歩いたストーリー

燃える炎の色を讃えて

舞った砂に文字を映して

それを何と例えよう？

想像が繰り返す無限大

今、此処に何が残るだろうか？

想像が生み出した無限大

今、此処で何かが散りゆく

未来に何描く？

強く 強く

そう願う 最後まで

いつに気付く？

全て消えた世界に

それでも美しいと信じよう

想像が繰り返す無限大

今、此処に何が残るだろうか？

想像が生み出した無限大

今、此処で何かが散りゆく

未来に何描く？

進化明滅

全てを忘れてきた人が
土を見て笑った

微かな声が海まで反射して

雨は空と混ざり合って

海は土に溶け出して

木々は最後の葉散って

風が別れを告げて

小さな最後がまた声を

上げたのならば

いつか僕らは思い出せるのかな

再び出会う日にまた手を

取り合えたなら

永遠もどこかに在るのかな

- - - - -
- - - - -
- - - - -

本来はここで終了ですが文字数の関係上

もう一度繰り返しします

全てを忘れてきた人が

土を見て笑った

微かな声が海まで反射して

雨は空と混ざり合って
海は土に溶け出して
木々は最後の葉散って
風が別れを告げて

小さな最後がまた声を
上げたのならば
いつか僕らは思い出せるのかな
再び会った日にまた手を
取り合えたなら
永久もどこかに在るのかな

明滅消失

空から降るは 海を赤く染めて
水飛沫が涙と交じる

最後の一粒が落ちたとき
無数の悲しみと共に全てが消えた

あらゆる星に見届けられて
音の溢れた星は今、無色

ブラックホールが未来を消して
ゼロがまた生まれて

最後に聞いたの彼の声は
今、何処で何を伝えるだろう？
遠くに光るあの星は
今、何を見つめ消えてゆくのか？
残り時間で何かを思い出して
隣で眠る星の手を取り合って

そうやって消えた青い星と全て
果てた音か？生まれの音か？
無色の空 それはいつか見た
無限の希望たちに似てて 全てが美しい

誰も名前は知らない
だけど皆は笑い合って
何も姿は見えない
だけど皆は笑い合って

消えてゆく

それは悲しみの涙だろうか？

最後に聞いたの彼の声は

今、何処で何を伝えるだろうか？

遠くに光るあの星は

今、何を見つめ消えてゆくのか？

残り時間で何かを思い出して

隣で眠る星の手を取り合って

消失再生

流れる季節を思い出したら
ふと美しい笑顔がこぼれて
隣にはいつも貴方がいて

競争の日々を思い出したら
また美しい笑顔がこぼれて
それは今に継ぐ時間であることを
いつまでも証明してた

足音は未来か？過去か？
今は何度目の無色なのだろう？
繰り返しが 引力の果てに
絶音は今、何処に？
音は今、此処に聞こえているのかな？
繰り返すと引力の果てへ

本来はここで終了ですが
文字数の関係上繰り返します

流れる季節を思い出したら
ふと美しい笑顔がこぼれて
隣にはいつも貴方がいて

競争の日々を思い出したら
また美しい笑顔がこぼれて
それは今に継ぐ時間であることを
いつまでも証明してた

足音は未来か？過去か？

今は何度目の無色なのだろう？

繰り返しが 引力の果てに

絶音は今、何処に？

音は今、此処に聞こえているのかな？

繰り返すと引力の果てへ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3946/>

最初、無色（詩集）

2010年10月9日04時01分発行